

No. 1062

五月のこよみ

風薫る五月。東京・新宿、巨大な超高層ビルが高さを競いあうその直下。風よ、なぜお前は、そんなに悩ましげに吹くのか。すわ、一大事、頭を冷やせとばかり、かけつけた消防自動車、かけつけてはみたものの、かなわぬコイの滝のぼり、いや、かなわぬ水のビルのぼり。雨ふれば傘開かぬことに悩み、風吹ばスカート開くことに悩む。

一陣の風が風雲急を告げれば、高らかにファンファレー。いよいよ乱戦オークスの開幕、時は五月の十九日、所は東京競馬場。オークス史上最高の26頭が馳せ参じて激しい先陣あらそい。ユウダンサーズが快足をとばして、ハナにたてば、遅れじと25騎があとを追う。向正面、メジロトヤマがあぶみをはずして、早くも乱戦から脱落。四コーナーをまわっていよいよ直線、馬群をわって一頭ぬけだしたスピードシンザン、あとゴールまで200メートル、その時、疾風のごとく大外から迫りくる一頭があった。トゥコウエルザである。一気に頭差かわしてゴールイン、騎手嶋田功はオークス三連覇の偉業を達成した。戦い終えて日が暮れて、片隅に頭をひやす男あり、その背に無情の風が吹きぬける。

夏だ、祭だと、風が運ぶ祭囃子に誘われて、東京浅草の三社祭にかけつけたミコシ八十八基、やじ馬およそ一万人。狂乱物価で祭りの総経費が億をこすのもなんのその、下町っ子の意気さかん。祭り気分は高まるばかり。

祭囃子がなんだとばかり、エンジンの爆音けたたましく、風のように通りぬけるカミナリ族。「ジョーカー」「魔蛇」「ねずみ小僧」「ZERO」それぞれにグループ名を書きこんでその勢力を誇示。その無法ぶりは目にあまると、おっとりかたなで駆けつけたお巡りさん、あちらと思えばまたこちら、お巡りさんも手をやく始末。爆音がこだまする五月の空はかくて深まり行く。